



山形県感染症発生動向調査

平成30年第29週(7月16日～7月22日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2018年7月25日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~29週
	第28週	第28週	第29週	増減	第28週	第29週	増減	第28週	第29週	増減	第28週	第29週	増減	第28週	第29週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	355 0.07																16171
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	2194 0.70		7 0.23	△		1 0.08	△					6 1.00	△				360
咽頭結膜熱	2121 0.68	37 1.23	15 0.50	▽	11 0.85	3 0.23	▽	2 0.67	3 1.00	▲	20 ◎3.33	9 ◎1.50	▽	4 0.50		▽	609
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	6971 2.22	64 2.13	59 1.97	▽	37 2.85	25 1.92	▽		1 0.33	△	16 2.67	23 3.83	△	11 1.38	10 1.25	▽	3259
感染性胃腸炎	14782 4.71	158 5.27	120 4.00	▽	75 5.77	43 3.31	▽	15 5.00	4 1.33	▽	28 4.67	24 4.00	▼	40 5.00	49 6.13	▲	5006
水痘	846 0.27	15 0.50	7 0.23	▽	2 0.15	2 0.15		4 1.33	1 0.33	▽	5 0.83	2 0.33	▼	4 0.50	2 0.25	▽	412
手足口病	6551 2.09	116 3.87	127 4.23	▲	87 ◎6.69	108 ◎8.31	▲	20 ◎6.67	10 ◎3.33	▽	7 1.17	8 1.33	▲	2 0.25	1 0.13	▽	730
伝染性紅斑	1057 0.34	13 0.43	9 0.30	▼	1 0.08	1 0.08					12 ◎2.00	8 ◎1.33	▼				292
突発性発しん	1722 0.55	20 0.67	18 0.60	▼	5 0.38	3 0.23	▼	1 0.33	1 0.33		7 1.17	9 1.50	▲	7 0.88	5 0.63	▽	469
ヘルパンギーナ	7600 2.42	172 5.73	250 ◎8.33	▲	78 ◎6.00	154 ◎11.85	▲	1 0.33	3 1.00	△	90 ◎15.00	85 ◎14.17	▽	3 0.38	8 1.00	▲	710
流行性耳下腺炎	615 0.20	3 0.10	2 0.07	▽	2 0.15	1 0.08	▽							1 0.13	1 0.13		86
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	14 0.02																
流行性角結膜炎	640 0.92	4 0.50	1 0.13	▽							1 1.00		▽	3 1.50	1 0.50	▽	63
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	7 0.01																20
クラミジア肺炎	1 0.00																
マイコプラズマ肺炎	78 0.16	1 0.10	4 0.40	△	1 0.25	4 1.00	△										75
細菌性髄膜炎	13 0.03	1 0.10	1 0.10		1 0.25	1 0.25											8
無菌性髄膜炎	23 0.05		1 0.10	△											1 0.33	△	5

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1		1		
腸管出血性大腸菌感染症	患者			1		型別:O111 VT1。
	無症状病原体保有者			5		型別:O157 VT1VT2 3人、O26 VT1 2人。
侵襲性肺炎球菌感染症	患者				1	ワクチン接種歴:無し。
百日咳	患者	7				ワクチン接種歴:4回 6人、不明 1人。小児 6人、大人 1人。

<通信欄>

※ヘルパンギーナの県平均の定点当たり報告数が警報開始基準値の6を超えたため、山形県は7月25日にヘルパンギーナ警報を発令しました。
 ※トピックスで、ヘルパンギーナについて掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症		2	2	1	2										7
咽頭結膜熱		3	3	2	4	1	2								15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	4	4	9	12	5	7	4	1	10	1	1	59
感染性胃腸炎	1	11	14	18	12	12	15	5	9	3	6	12	1	1	120
水痘				2			2	2	1						7
手足口病		10	39	24	17	8	12	6	5	3	1	1		1	127
伝染性紅斑		1	1			1	2	2			1	1			9
突発性発しん		7	7	3		1									18
ヘルパンギーナ		23	53	36	37	30	26	14	15	6	5	4		1	250
流行性耳下腺炎					1	1									2

<平成30年6月 月報>

2018年7月25日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～6月	
	5月	6月										
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	24	15	13	9	6	2	3	2	2	2	113
	定点当り	2.40	1.50	3.25	2.25	6.00	2.00	1.50	1.00	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	7	2	1	1	1	2	4	1	1	52
	定点当り	0.60	0.70	0.50	0.25	1.00	1.00	1.00	2.00	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3	5	1	2			1	1	1	2	19
	定点当り	0.30	0.50	0.25	0.50			0.50	0.50	0.33	0.67	
淋菌感染症	報告数	5	3	2	2			1		2	1	17
	定点当り	0.50	0.30	0.50	0.50			0.50		0.67	0.33	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	7	11	2	1		1	1	3	4	6	47
	定点当り	0.70	1.10	0.50	0.25		1.00	0.50	1.50	1.33	2.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	22	5	12	2		1		5	10	107
	定点当り	1.30	2.20	1.25	3.00	2.00		0.50		1.67	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

ヘルパンギーナ警報が発令されました

第29週における、ヘルパンギーナの県平均の定点当たり報告数は8.33人であり、警報開始基準値の6人を超えたため、県は「ヘルパンギーナ警報」を発令しました。

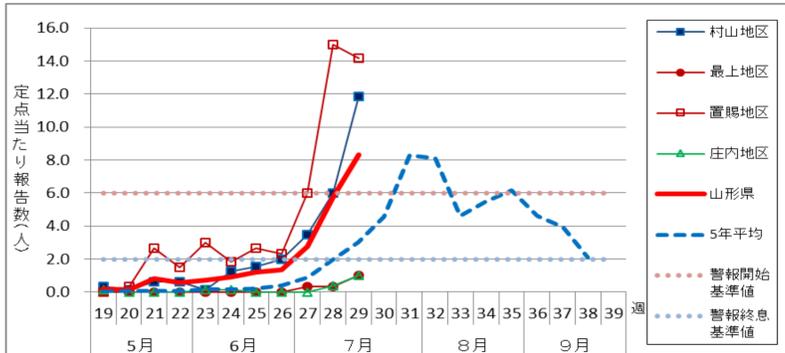
ヘルパンギーナ

- ・警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人
- ・第29週 定点当たり報告数(山形県:8.33人)
村山:11.85人 最上:1.00人 置賜:14.17人 庄内:1.00人

ヘルパンギーナとは

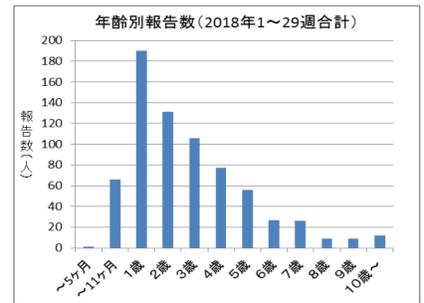
エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA群など)による感染症で、5歳位までの幼児を中心に、夏に流行します。突然の高熱で発症し、続いてのどの痛み、のどの奥に水疱が現れます。のどの奥の水疱は、やがて破れて痛みを伴います。

1.地区別定点当たり報告数(山形県)



2. 年齢別内訳

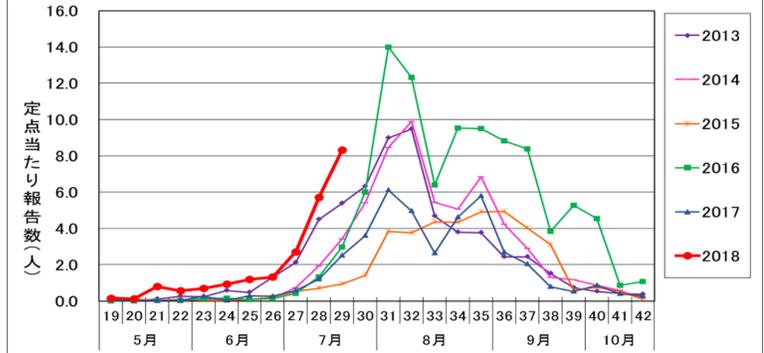
年齢別では、1歳をピークに、5歳位までの幼児の報告が多くなっています。



3.ウイルス分離・検出状況 :山形県衛生研究所(7月18日現在)

2018年は、県内のヘルパンギーナの患者からコクサッキーウイルスA(以下CA)10型:5件、CA2型:2件、CA4型:1件分離・検出されています。

4.年別定点当たり報告数(山形県)



ヘルパンギーナの治療は、対症療法が中心となります。口腔内の痛みにより、水分がとりにくい場合もありますので、脱水に注意しましょう。
 予防法としては、患者との濃厚な接触を避けることと、うがい、手洗いを徹底することが大切です。回復後も、便中には2～4週間にわたり、ウイルスが排泄されますので、おむつ交換や、トイレの後は特に入念に手を洗いましょう。

しっかり手洗い!



おむつ替えの後は入念に!

